

令和 6年 2月

濱本航 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 義 之
副主査 梅 北 善 久
同 磯 本 一

主論文

Safety and diagnostic yield of endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy for hypervascular pancreatic lesions

(多血性膵腫瘤性病変に対する超音波内視鏡下穿刺吸引生検法の安全性と診断能)

(著者：濱本航、斧山巧、河原史歩、坂本有里、孝田博輝、山下太郎、武田洋平、松本和也、原田賢一、山口直之、磯本一)

令和5年 Journal of clinical medicine 12巻 6663

参考論文

1. Peroral cholangioscopy-guided forceps biopsy versus fluoroscopy-guided forceps biopsy for extrahepatic biliary lesions

(肝外胆管病変に対する経口胆道鏡下生検と透視下鉗子生検の比較)

(著者：斧山巧、濱本航、坂本有里、河原史歩、山下太郎、孝田博輝、川田壮一郎、武田洋平、松本和也、磯本一)

令和2年 An open access journal of gastroenterology and hepatology 4巻
1119頁～1127頁

審 査 結 果 の 要 旨

超音波内視鏡下穿刺吸引生検法（EUS-FNB）は、膵臓の腫瘍性病変を確定診断するために経胃的、経十二指腸的に行われる診断能の高い検査である。一方、本法の多血性膵腫瘍に対する安全性や有害事象のリスクに関する報告は少ない。本研究は膵臓の腫瘍性病変に対するEUS-FNBについて、病変の内部血流を造影CT検査で評価して多血性病変と乏血性病変の2群に分類し、安全性と診断能を比較検討したものである。その結果、2群間でEUS-FNBの感度、特異度、正診率に差は認めなかった。また、出血をはじめとする有害事象の発生率も有意差はなく、多血性病変においても先行研究に劣らない成績であることが判明した。本論文の内容は、膵臓の多血性病変に対するEUS-FNBが、乏血性病変と同等の診断能を有するだけでなく、安全に施行できる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。